



田原市スポーツ推進計画 2026-2030



令和 8 年 3 月
田原市教育委員会

目 次

第 1 章	計画の改定にあたって.....	1
1	計画の趣旨と背景.....	1
2	計画の位置づけ.....	2
3	計画の期間.....	3
4	計画におけるスポーツの範囲.....	3
第 2 章	田原市のスポーツの現状と課題.....	4
1	田原市のスポーツの現状.....	4
①	田原市におけるスポーツ施設の利用状況.....	4
②	組織・人材の現状.....	6
③	スポーツに関する事業.....	11
④	市民アンケート調査結果からみる現状.....	14
2	田原市のスポーツの課題.....	19
第 3 章	基本理念と基本施策.....	21
1	基本理念.....	21
2	スローガン.....	21
3	基本施策.....	22
4	計画の体系.....	23

第4章 施策の展開.....	25
基本施策1 スポーツの機会の充実.....	25
1-1 子どものスポーツ活動の推進.....	27
1-2 成人のスポーツ活動の推進.....	29
1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進.....	30
1-4 障がい者のスポーツ活動の推進.....	31
1-5 みる・ささえるスポーツの推進.....	32
基本施策2 スポーツ組織・人材の充実.....	33
基本施策3 スポーツ施設の整備・充実.....	35
基本施策4 スポーツによる地域活性化.....	36
第5章 計画の推進体制.....	37
1 計画の推進体制.....	37
2 各主体の役割分担.....	38



計画の改定にあたって

1 計画の趣旨と背景

近年、日本では少子高齢化や生活習慣病の増加、地域コミュニティの希薄化といった社会課題が進行しており、これらの解決策としてスポーツへの期待が高まっています。スポーツは、体力向上や心身の健康の保持増進をもたらすだけでなく、多くの人に夢や感動を与え、人々を集わせる魅力を持ち、地域の交流と活性化を促進する重要な役割を果たしています。

田原市では、スポーツ基本法第10条第1項に基づき、平成28年3月に「田原市スポーツ推進計画」を策定し、市民やスポーツ関連団体の主体的な活動やスポーツイベントの開催を通じて、スポーツの振興に努めてきました。こうした取組により一定の成果を上げてきた一方で、急速に変化する社会環境や市民ニーズに対応するためには、さらなる施策の見直しと充実が求められています。また、中学校の部活動の地域展開を含め、地域全体でスポーツ環境を支える体制が求められています。

国においては、平成23年に「スポーツ基本法」が制定され、スポーツを誰もが享受すべき基本的な権利と位置づけています。令和5年策定の「第3期スポーツ基本計画」では、「する」「みる」「ささえる」「まなぶ」など多様な関わり方を通じて、全ての人がスポーツに親しむ社会を目指しています。健康寿命の延伸や地域の活性化、共生社会の実現にも寄与するものとされています。

また、愛知県でも「愛知県スポーツ推進計画 2023-2027」を策定し、多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出や子どものスポーツ活動の充実、トップアスリートの育成やスポーツによる地域活性化に向けた基本施策を打ち出しています。

こうした国や県の方針を踏まえ、本市の自然環境を活かしたスポーツを通じて、関係・交流人口の拡大を図るとともに、スポーツの力による地域の魅力発信や活性化を目指し、スポーツ推進計画を改定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、「田原市総合計画」「田原市総合教育大綱・田原市教育振興基本計画」を上位計画とする個別計画で、これらの計画の方向性を踏まえて、本市のスポーツ推進のための事業を明らかにします。

また、スポーツ基本法第10条第1項に規定する「地方スポーツ推進計画」に位置づけるものとし、国の「スポーツ基本計画」及び愛知県の「スポーツ推進計画」を踏まえて改定します。



3 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

また、計画期間を田原市総合教育大綱・田原市教育振興基本計画、その具体的なアクションプランである教育分野に関する個別計画に合わせ、既存計画の10年間から5年間へと変更することで、スポーツ環境の変化に柔軟に対応し、計画の実行性を高めます。

4 計画におけるスポーツの範囲

田原市では、運動競技だけではなく、広く自身の健康増進のために行う身体運動もスポーツとして捉えます。具体的には、健康づくりや介護予防のために行うウォーキングや体操などの軽い運動、遊びの要素を取り入れるなど楽しみながら体を動かす遊具遊びやレクリエーション、あるいは余暇時間を使って楽しむハイキングやサイクリングなどもスポーツの範疇として捉えます。

また、eスポーツ*などの大きな身体活動を伴わない競技も「スポーツ」として捉える動きがあり、第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）では正式競技として実施される予定ですが、これについては議論の余地があるため、今回の改定ではスポーツの範囲には含めないものとします。

e スポーツ：「エレクトロニック・スポーツ（Electronic Sports）」の略で、コンピューターゲームやビデオゲームを使った競技・スポーツのことを指します。単にゲームを遊ぶことではなく、勝敗や技術を競い合うという点で、体を動かすスポーツと同じ「競技性」を持っています。



第2章

田原市のスポーツの現状と課題

1 田原市のスポーツの現状

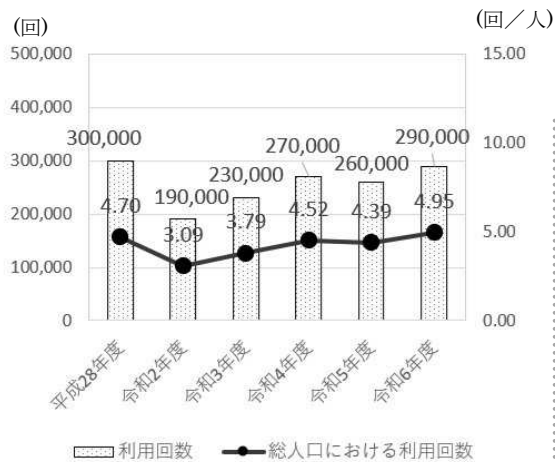
① 田原市におけるスポーツ施設の利用状況

表1 主なスポーツ施設の一覧表

施設名	建築年	主なスポーツ施設
田原市総合体育館	1978	競技場、第1武道場、第2武道場
渥美運動公園	1982	屋内競技場、柔道場、剣道場、野球場、テニスコート、弓道場、多目的広場
赤羽根文化広場	1978	ふれあい会館、多目的運動広場、テニスコート、パターゴルフ場
白谷海浜公園陸上競技場	1995	トラック、フィールド、サッカーコート
緑が浜公園	1983	センターハウス、野球場、多目的広場、テニスコート、パターゴルフ場
滝頭公園	1972	野球場、多目的広場、センターハウス、テニスコート
中央公園	2002	テニスコート、弓道場、遊水地スポーツ広場、多目的広場
田原東部運動公園	—	多目的広場
神戸運動公園	—	多目的広場

資料：生涯学習課

図1 スポーツ施設利用回数の推移



資料：生涯学習課

スポーツ施設利用回数

スポーツ施設利用回数の推移をみると、令和6年度で29万回となっており、令和2年度に比べ10万回増加しています。コロナ禍前の平成28年度は30万回であり、ほぼ同水準まで回復しています。

公共施設の延床面積

公共施設の延べ床面積は、東三河5市の中でも多い傾向にあり、将来の維持管理費を考え、集約化や老朽化対策など、合理的な施設配置が求められます。

表2 田原市の人口当たりの延べ床面積（㎡/人）

	平成24年	令和7年
体育施設	0.23	0.22
総面積	6.10	6.75

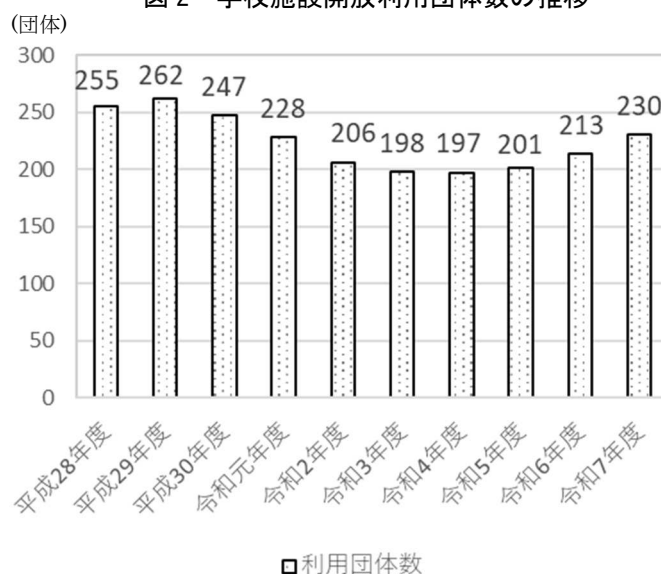
資料：企画課

学校施設開放の実施

田原市では公共施設のより有効的な活用を目指し、小中学校の運動場・体育館・武道場などを、学校が使わない時間にスポーツ関連団体へスポーツやレクリエーションを楽しんでもらうために開放しています。

市内に在住または在勤の方で構成する10人以上の団体で、定期的に施設を利用する団体が対象で、登録申請を行うことで週2回を目安に学校施設を利用することができます。令和6年度の学校施設開放利用団体数は213団体で、年間の利用数は8,921回となっており、多くの団体に学校施設が利用されています。

図2 学校施設開放利用団体数の推移

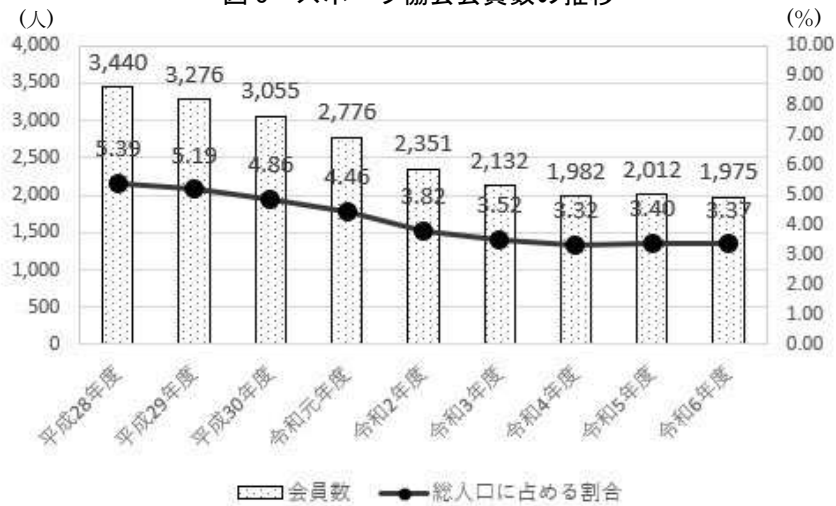


資料：スポーツ課

② 組織・人材の現状

田原市スポーツ協会

図3 スポーツ協会会員数の推移



資料：スポーツ協会

スポーツ協会加入者数の推移をみると、令和6年度で1,975人となっており、平成28年度に比べ1,465人減少しています。近年は横ばいで推移しています。

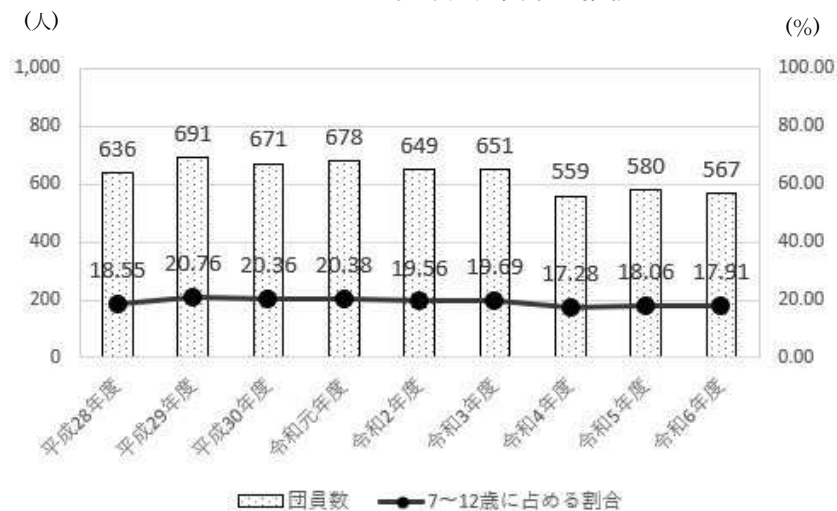
表3 田原市スポーツ協会加盟団体（令和7年度）

競技名等				
軟式野球	剣道	ソフトテニス	弓道	卓球
柔道	バレーボール	バドミントン	ソフトボール	テニス
硬式空手道	サッカー	陸上競技	ゲートボール	グラウンドゴルフ
サーフィン	空手道	ビーチバレー	ミニバレーボール	ソフトバレーボール
ゴルフ	バスケットボール	フットサル	スポーツ少年団	

資料：スポーツ協会

スポーツ少年団

図4 スポーツ少年団団員数の推移



資料：スポーツ少年団

スポーツ少年団団員数の推移をみると、令和6年度で567人となっており、平成28年度に比べ69人減少しています。令和3年度から4年度にかけて大きく減少しており、近年はほぼ横ばいとなっています。7~12歳人口に占める割合としては17~20%の間で推移しています。

表4 スポーツ少年団の種目と人数（令和6年度末）（単位：人）

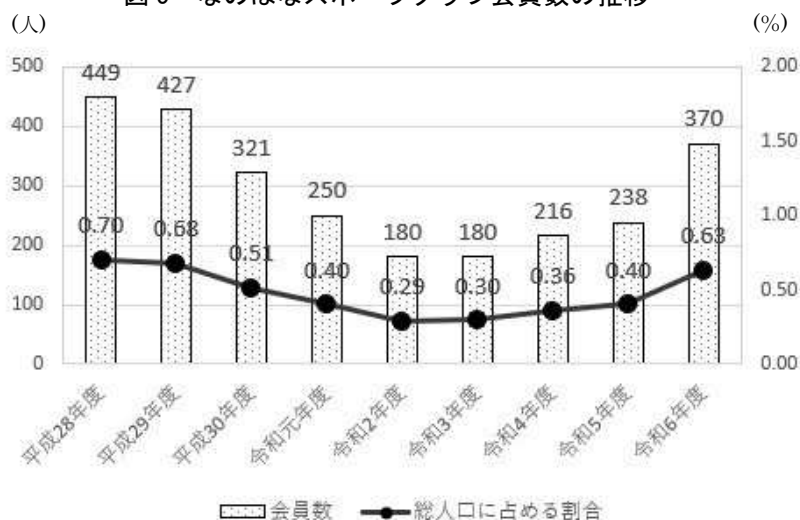
地区	種目	バレーボール	軟式野球	ソフトテニス	剣道	バドミントン	サッカー	空手
中部		36	26	33		21	39	
衣笠			15	19		12		
神戸			31	16	26	17		
野田			17		7	13		
東部			24			21		
童浦			20	12		21		
南部			18			13		
赤羽根		20	25			26		
渥美			50			29		5

資料：スポーツ少年団

スポーツ少年団の開設されている種目数については地区によって差があり、軟式野球とバドミントンは全地区に開設されていますが、その他の競技で住んでいる地区に開設されていない場合は近隣の地区の活動に参加することとなっています。

なのはなスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）

図5 なのはなスポーツクラブ会員数の推移



資料：なのはなスポーツクラブ

なのはなスポーツクラブ会員数の推移をみると、令和6年度で370人となり、平成28年度に比べ79人減少しています。令和2年度までは減少傾向でしたが、近年は回復傾向にあります。

表5 なのはなスポーツクラブ開設教室（令和7年度）

開設教室			
卓球	スポーツ吹き矢	バドミントン	ソフトテニス
ゲートボール	かんたんヨガ	かんたんエアロ	美容・健康ストレッチ
はじめての空手	たのしい空手	硬式空手道	赤羽根バレーボール
ビーチバレーボール	ポッチャ	柔道柔術	ピククルボール

資料：なのはなスポーツクラブ

田原市スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法の定めにより、市町村ごとに任命されており、田原市では、28人の委員が活動をしています。

活動内容としては、田原市が主催する各種スポーツ大会の企画・立案・運営を行っています。また、ニュースポーツの普及促進のため、各種講座や教室での実技指導を行うなど、市民のスポーツ活動を支援しています。

さらに、地域のスポーツ活動の推進を図るため、各地区に配置されているスポーツ普及員と連携し、各地区でのスポーツイベントを開催するなど、地域でのスポーツ振興にも取り組んでいます。

【スポーツ関連団体へのヒアリングからの意見】

○ スポーツ協会について

- ・会員数は、ピーク時（平成18年）から、大きく減少している。
- ・スポーツギネス大会と陸上競技選手権大会は市との共催で実施しているが、種目がマンネリ化している。学校単位で参加できる種目を取り入れるなど、新たな工夫が必要となっている。
- ・トライアスロンや駅伝のボランティアにも協力しており、継続していきたい。
- ・東三河の他市と歩調を合わせた政策ではなく、田原市独自の政策を進めてほしい。

○ スポーツ少年団について

- ・団員数は約550人で数年はこの水準で維持されているが、わずかな減少傾向となっている。
- ・体験会が入会の主なきっかけとなっていて、活動は主に土日に行っている。
- ・指導者の多くは「父母コーチ」が中心で若返りが図られる一方、固定化されたコーチは高齢化の傾向にある。一部の競技団体ではコーチが不足している。
- ・勝ちにこだわるのではなく、楽しみと体力向上を重視して活動している。
- ・熱中症対策強化として、日陰の設置やエアコン導入などの環境整備をお願いしたい。

○ 総合型地域スポーツクラブについて

- ・会員数は新型コロナの影響で減少したが、現在は回復しつつある。
- ・活動自体の認知度が低いことが課題である。
- ・スポーツ協会と横並びで「競技を極めたい人」と「楽しく運動したい人」の両輪でスポーツ環境を支える形が望ましい。
- ・スポーツクラブでは、学校の部活動では競技に出場できない補欠の選手が、競技を楽しみながら活動できる。

○ 指導者について

- ・指導員資格の形骸化が進んでいるため、きちんとした指導者資格を整える必要がある。
- ・子どもたちに対しては、競技技術だけでなく教育的観点からも指導できる指導者が必要である。

田原市ふるさと大使

田原市では市の認知度とイメージの向上のため、田原市出身または田原市にゆかりのある著名な方に田原市ふるさと大使として田原市の魅力や情報を全国に発信していただいています。

スポーツに関する田原市ふるさと大使としては、佐藤敏信氏（トヨタ自動車陸上長距離部総監督）、尾川とも子氏（プロクライマー）、小川泰弘氏（プロ野球選手）、に加え、令和7年10月にオフロードトライアスロンin田原の発起人である小笠原崇裕氏（公益財団法人日本自転車競技連盟マウンテンバイク日本代表監督）と都築虹帆氏（プロサーファー）が新たに就任しました。



田原市ふるさと大使の佐藤敏信氏（左）、尾川とも子氏（中央）、小川泰弘氏（右）



新たに田原市ふるさと大使に就任した小笠原崇裕氏（左）、都築虹帆氏（右）

③ スポーツに関する事業

田原市における主な地域資源を活かしたスポーツイベントの開催状況は、下記のとおりとなっています。

表6 主な地域資源を活かしたスポーツイベント（令和7年度実施・令和8年度予定）

イベント名	主催
第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）	公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
サーフィン国際大会（WSL QS6000）	2025 WSL TAHARA PRO 実行委員会
トライアスロン伊良湖大会	トライアスロン伊良湖大会実行委員会
中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会	中部実業団陸上競技連盟・北陸実業団陸上競技連盟
渥美半島ウルトラネイチャーラン	渥美半島ウルトラネイチャーラン実行委員会
オフロードトライアスロン in 田原	田原オフロードトライアスロン実行委員会
渥美半島駅伝競走大会	田原市・豊橋市・公益財団法人豊橋市スポーツ協会・田原市スポーツ協会・中日新聞社
渥美半島ぐる輪サイクリング	渥美半島ぐる輪サイクリング実行委員会
赤羽根ロングビーチラン	田原市スポーツ協会（赤羽根ロングビーチラン実行委員会）

資料：スポーツ課

表7 その他の主なスポーツ・健康に関するイベント（令和7年度実施）

イベント名	主催
田原市スポーツフェスティバル	田原市・田原市教育委員会
田原市スポーツギネス大会	田原市・田原市教育委員会
伊勢地域交流野球大会（田原市長杯）	田原市・田原市スポーツ少年団
田原市陸上競技選手権大会	田原市・田原市スポーツ協会
3世代交流ゲートボール大会	田原市・田原市スポーツ協会
ウォーキング大会	田原市教育委員会・田原市スポーツ推進委員
ロゲイニング大会	田原市教育委員会・田原市スポーツ推進委員
市政ほーもん講座	田原市・田原市スポーツ推進委員
ニュースポーツ大会	田原市教育委員会・田原市スポーツ推進委員
トップアスリート等による実技指導教室	田原市教育委員会・田原市スポーツ協会
高齢者向けゲートボール・グラウンドゴルフ大会	田原市・田原市老人クラブ連合会
産後アフタービクス&ベビービクス講座	田原市（親子交流館）
健康マイレージ	田原市
あと1,000歩歩かまいキャンペーン	田原市
健康づくり出張講座	愛知県健康づくりリーダー
介護予防教室	田原市

資料：スポーツ課

第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）

アジア競技大会は、4年に1度開催されるアジア最大のスポーツの祭典です。アジア・オリンピック評議会（OCA）が主催し、アジアの45の国と地域が参加します。大会期間は令和8年9月19日（土）から10月4日（日）の16日間で、田原市では赤羽根町大石海岸（太平洋ロングビーチ）においてサーフィン競技が開催されることが決定しています。



会場となる太平洋ロングビーチ

サーフィン国際大会（WSL QS6000）

令和7年9月16日（火）～21日（日）の6日間にわたり、田原市赤羽根町大石海岸（太平洋ロングビーチ）において、サーフィンの国際大会「2025 BILLABONG TAHARA PRO（WSL QS6000）」が開催されました。国内外から200名を超えるトップサーファーが出場し熱戦を繰り広げました。



2025 BILLABONG TAHARA PRO（WSL QS6000）

トライアスロン伊良湖大会

トライアスロン伊良湖大会は、毎年9月、伊良湖岬の豊かな自然と風光明媚な景観を舞台に開催される本市を代表するスポーツイベントです。大会当日は、地域住民や福江高校の生徒をはじめとする多くのボランティアが選手を支え、温かい声援で力強く選手を後押しします。大会は、本市の魅力を全国に発信する絶好の機会となっています。



中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会

中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会は、中部・北陸の実業団チームが参加する伝統ある駅伝大会で、全日本実業団対抗駅伝競走大会（通称ニューイヤー駅伝）の予選会も兼ねています。各チームの代表選手が全国への切符をかけて力強い走りを見せ、高い競技力と白熱したレース展開が観客を魅了します。大会は、地域に大きな活力をもたらす重要なスポーツイベントとなっています。



④ 市民アンケート調査結果からみる現状

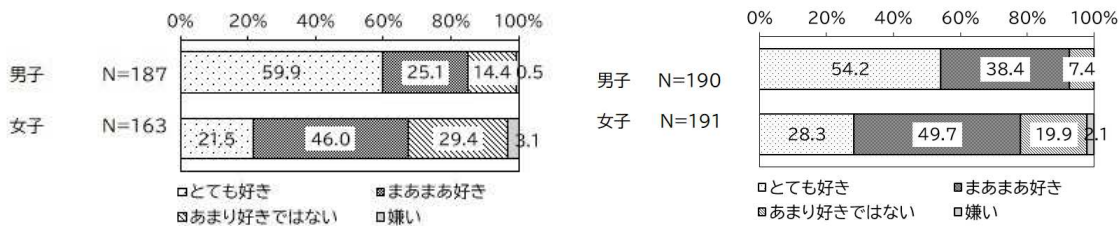
小中学生向けアンケート調査結果

田原市内の小学5年生516人、中学2年生543人に対し、スポーツへの関心や実施状況などについて何うアンケートを令和7年8～9月に実施し、小学5年生354人と中学2年生387人から回答を得ました。

〔スポーツの好き・嫌い〕

「スポーツ競技を見たり、行ったりすることが好きですか？」という質問に対して、「とても好き」もしくは「まあまあ好き」と回答した子どもの割合は小中学生ともに7割を超えており、特に中学生男子については9割を超えています。子どもたちにとってスポーツは好意的に捉えられているといえます。

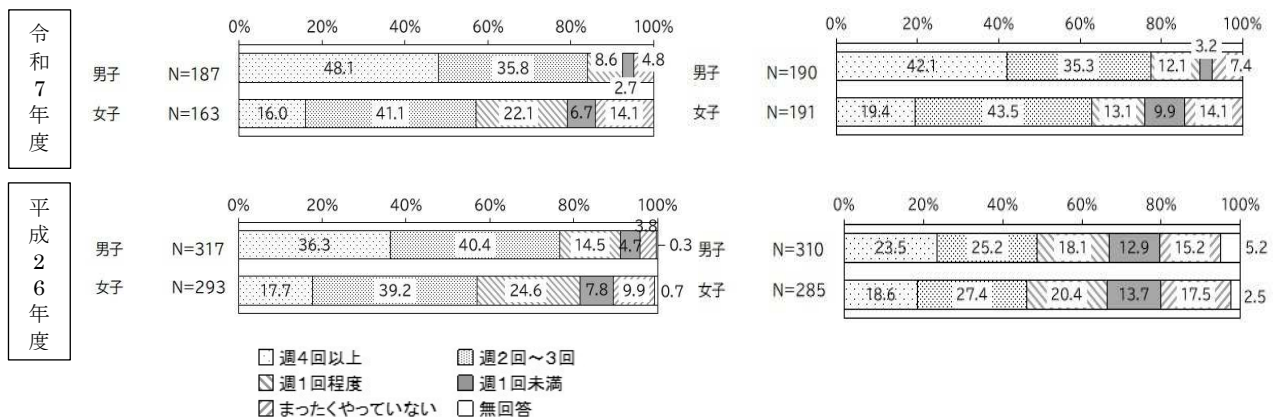
図6 スポーツの好き・嫌いについて（左：小学5年生 右：中学2年生）



〔学校の授業や部活動以外のスポーツの実施頻度〕

授業や部活動以外のスポーツの実施頻度についてみると、小学生よりも中学生の方が週1回未満の割合が増えています。前回調査と比較すると「週4回以上」の割合が増えており、運動習慣のある子とない子の二極化が進んでいます。

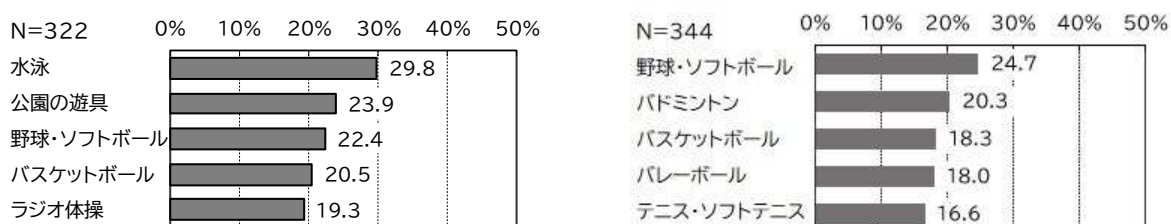
図7 学校の授業や部活動以外のスポーツの実施頻度について（左：小学5年生 右：中学2年生）



〔授業・部活動以外で取り組んでいるスポーツ〕

授業・部活動以外で取り組んでいるスポーツについては、小学生では水泳、公園の遊具、野球・ソフトボールの順に多く、中学生では野球・ソフトボール、バドミントン、バスケットボールの順となりました。中学生になると取り組むスポーツも変化していることがわかります。

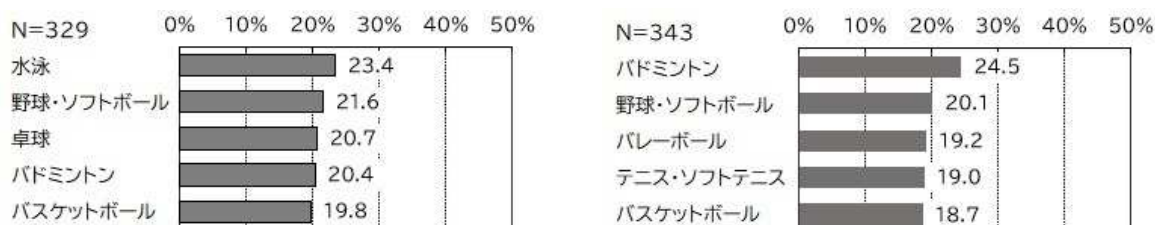
図8 学校の授業や部活動以外で取り組んでいる運動・スポーツ 上位5つ（左：小学5年生 右：中学2年生）



〔今後やってみたい・続けていきたいスポーツ〕

今後やってみたい・続けていきたいスポーツについても、授業・部活動以外で取り組んでいるスポーツと同様のスポーツが多く選ばれています。小学生では卓球やバドミントンも上位に入っています。

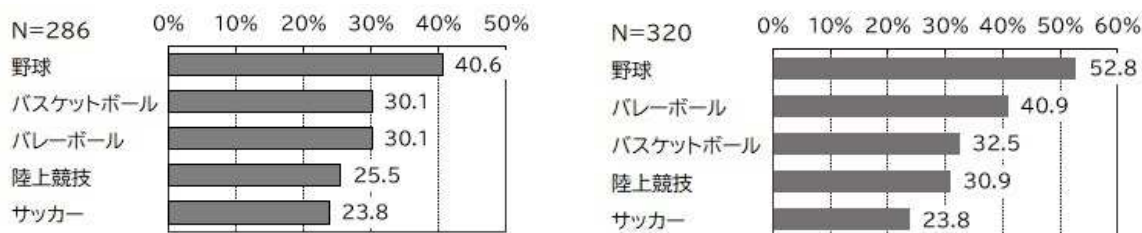
図9 今後やってみたい・続けていきたい運動・スポーツ 上位5つ（左：小学5年生 右：中学2年生）



〔実際に観戦したり、応援したいスポーツ〕

実際に観戦したり、応援したいスポーツについて聞いたところ、小中学生ともに野球、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、サッカーが上位5つという結果となっています。

図10 実際に観戦したり、応援したい運動・スポーツ 上位5つ（左：小学5年生 右：中学2年生）



〔 (参考) 体力合計点 〕

スポーツ庁が行う全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本市の体力合計点は、小学5年生は全国および県平均よりも高くなっていますが、中学2年生では全国および県平均よりも低くなっています。

表8 体力合計点 平均値(点) (左:令和6年度、右:平成26年度)

R6		田原市	愛知県	全国	H26		田原市	愛知県	全国
小学5年	男	53.91	51.12	52.54	小学5年	男	53.41	52.22	53.91
	女	54.39	52.54	53.93		女	55.60	53.46	55.01
中学2年	男	37.77	40.00	41.69	中学2年	男	39.96	40.75	41.63
	女	45.24	45.97	47.22		女	48.70	48.60	48.55

資料: 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

〔 (参考) 中学校の部活動の状況 〕

田原市の中学校の部活動は表9のとおりとなっています。

表9 中学校の部活動と人数(令和7年5月)

(単位:人)

種目			陸上		水泳	バレーボール		軟式野球	ソフトボール	ソフトテニス		バドミントン		卓球		バスケットボール		剣道	
中学校	生徒数	運動部	男	女	男女	男	女	男女	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
東部	372	297	45		1		20	26	15	32	40			32	40	32	24	22	
田原	683	493	46	20	1	36	39	51	20	46	31			53	36	44	34	21	15
赤羽根	211	88				22	11	20	10		13							8	4
福江	323	236	16	7		23	31	28	14	24	21	3※	5※	18	25	25	1	2	

※福江中学校バドミントン部の生徒は全員兼部している

資料: 学校教育課

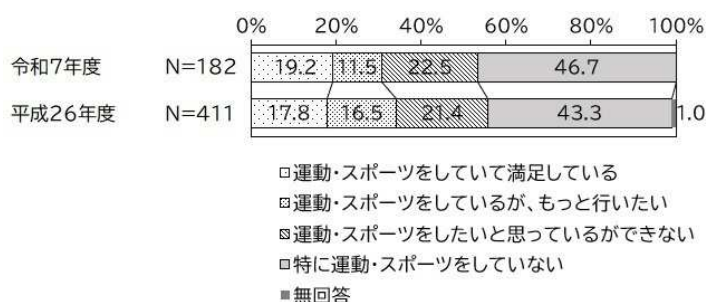
市民向けアンケート調査結果

市内在住の18歳以上の男女500人に、スポーツへの取組状況や実施方法などについて伺うアンケートを令和7年8～9月に実施し、186人から回答を得ました。

〔運動・スポーツの取組方〕

運動・スポーツの取組方についてみると、平成26年度調査と比べ、スポーツをする人の割合が低くなっています。

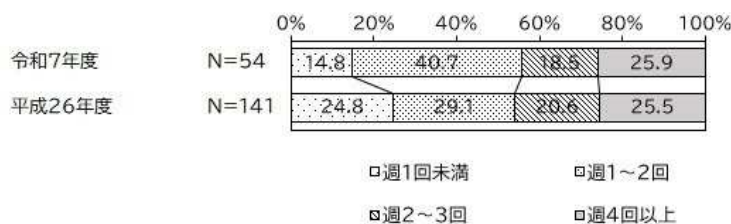
図11 運動・スポーツの取組方について(市民)



〔運動・スポーツの実施頻度〕

運動・スポーツの実施頻度についてみると、平成26年度調査と比べ、スポーツをする人の中で、「週1～2回」程度スポーツを行う人が増加し、「週1回未満」の回答が減っていることから、スポーツの習慣化が進んでいます。

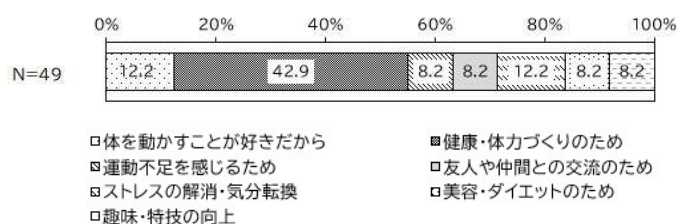
図12 運動・スポーツの実施頻度について(市民)



〔スポーツを行う理由〕

スポーツを行う理由についてみると、「健康・体力づくりのため」の割合が42.9%、「体を動かすことが好きだから」と「ストレスの解消・気分転換」が12.2%となっています。

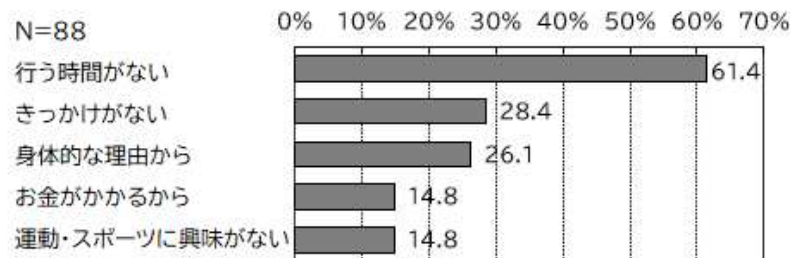
図13 スポーツを行う理由について(市民)



〔 運動・スポーツをしていない理由 〕

運動・スポーツをしていない理由についてみると、「行く時間がない」の割合が61.4%で最も高く、次いで「きっかけがない」が28.4%となっています。

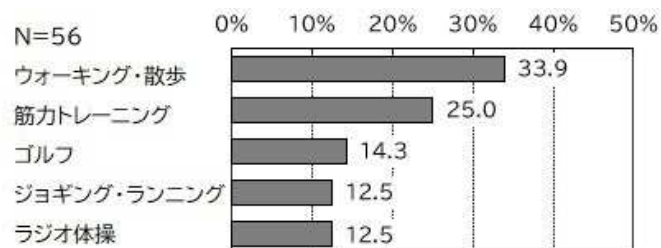
図14 運動・スポーツをしていない理由について（市民）※上位5つ



〔 実施しているスポーツの種類 〕

実施しているスポーツの種類についてみると、特に行われているスポーツは、「ウォーキング、散歩」が33.9%、「筋力トレーニング」が25.0%となっています。

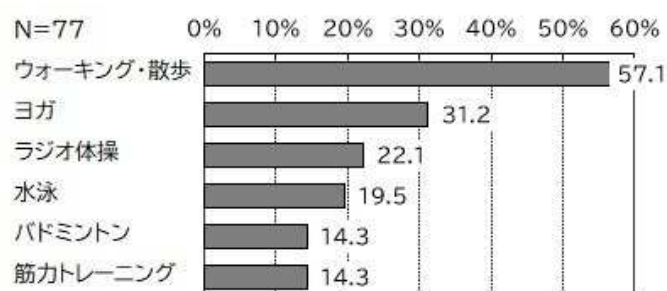
図15 実施しているスポーツの種類について（市民）※上位5つ



〔 今後取り組みたいスポーツの種類 〕

スポーツに取り組んでいない人に今後取り組みたいスポーツの種類についてみると、「ウォーキング、散歩」が57.1%、「ヨガ」が31.2%、「ラジオ体操」が22.1%となっています。

図16 今後取り組みたいスポーツの種類について（市民）※上位6つ



2 田原市のスポーツの課題

田原市では、これまで市民やスポーツ関連団体の主体的な活動を通じてスポーツの振興に努めてきましたが、急速に変化する社会環境に対応するため、スポーツの継続的な機会確保、組織・人材の育成、施設環境の充実・集約化、そして情報発信・地域活性化のさらなる強化が喫緊の課題となっています。

(1) スポーツ機会の充実と多様な関わり方を通じたスポーツの推進 ●●●●

近年、国の方針に基づき、中学校の部活動の在り方が見直され、地域展開が進められています。これに伴い、学校部活動が担ってきたスポーツ機会の減少を防ぎ、子どもたちのスポーツ機会に格差が生じないように、地域全体で環境を整備することが求められています。本市では、こうした変化に対応するため地域クラブ協議会を発足させ、令和7年9月から地域クラブによる活動が始まりました。今後は、市とスポーツ関連団体が連携し、誰もが参加できる多様なスポーツ機会の創出と環境整備を進めていくことが求められます。

また、地域における自治会活動や老人会活動が縮小する中で、地域住民がスポーツに触れる機会も減少しています。そのため、様々なスポーツ関連団体が連携し、年代やニーズに応じた多様なスポーツプログラムを提供することで、市民が身近にスポーツへ関わるきっかけをつくる必要があります。

一方で、地域ではスポーツ推進委員によるニュースポーツの普及活動などにより、年齢や障がいがある人ない人関係なく参加できる様々なスポーツが行われています。さらに、愛知県健康づくりリーダーを中心とする運動のグループ活動が地域に広がり、高齢者の健康づくりを支えています。市民一人ひとりのライフスタイルや運動能力に応じて「いつでも・どこでも・だれでも」スポーツに親しむことができる環境づくりを推進していく必要があります。

さらに、スポーツを「みる」「ささえる」といった関わり方を広げることも、生涯にわたるスポーツ推進には重要です。ハイレベルな大会や競技に触れる機会を提供し、地元選手やチームを応援できる環境を整えることで、地域全体でスポーツを楽しみ、支える風土の醸成につなげる必要があります。

第3章

基本理念と基本施策

1 基本理念

スポーツは、心身の健康を高めるだけでなく、生きがいや日々の充実感をもたらす、世代や立場を超えた人とのつながりを育む大切な活動です。また、ルールや礼節を学び、他者を思いやる態度を身につける機会にもなります。田原市では、子どもから高齢者まで、すべての市民が、いつでも、どこでも、だれでも気軽にスポーツに親しめる環境の整備を進め、生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康で幸せを実現できるまちを目指します。

さらに、本市が誇る海や山といった恵まれた自然環境を活かした特色あるスポーツの推進にも力を入れていきます。市民の交流を活発にするとともに、スポーツをきっかけに市外から多くの人々が訪れることで、関係人口や交流人口の拡大を図ります。こうした取組により、スポーツを通じた地域の魅力発信とともに、地域のにぎわいや活力の創出を目指していきます。

2 スローガン

田原市民や田原市を訪れる人々が、みんなでスポーツを楽しむスポーツタウンを目指すため、「スポーツ大好き 田原」をスローガンに掲げて、計画を推進します。



3 基本施策

基本理念を実現するために、次の1から4の基本施策を掲げて事業を推進していきます。また、基本施策1「スポーツの機会の充実」には、ライフスタイルや特性・関わり方に応じた施策を別に掲げることとします。

基本施策1 スポーツの機会の充実

- 1-1 子どものスポーツ活動の推進
- 1-2 成人のスポーツ活動の推進
- 1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進
- 1-4 障がい者のスポーツ活動の推進
- 1-5 みる・ささえるスポーツの推進

基本施策2 スポーツ組織・人材の充実

基本施策3 スポーツ施設環境の充実

基本施策4 スポーツによる地域活性化

4 計画の体系

スローガン

スポーツ大好き

田原

基本施策 1 スポーツの機会の充実

主なアクション

- スポーツ大会開催など、スポーツにチャレンジできる環境を提供する
具体的アクション：ニュースポーツ教室・ウォーキング大会等を開催する
 市政ほーもん講座のスポーツ健康講座を開催する
 各競技の初心者教室・スポーツフェスティバル大会を開催する
- 地域におけるスポーツ活動を推進する
- 健康づくりを目的とした、たはら健康マイレージ等の取組を推進する

1-1 子どものスポーツ活動の推進

- 乳幼児期における身体活動の推進を図る
- 子どもたちが楽しみながら積極的に体を動かすことを意図した運動・スポーツの推進を図る
- イベント等でダンスなどのスポーツ活動の成果を発表する機会を設ける
- 中学生の休日の活動の受け皿となる「地域クラブ」の支援等に取り組むとともに、中学・高校の部活動と各団体間の横断的な取組を推進する

1-2 成人のスポーツ活動の推進

- 家族や友達と楽しむ運動習慣者を増やす

1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進

- ウォーキングやラジオ体操などの気軽に取り組めるスポーツを通じて、高齢者の健康づくりやフレイル予防の推進を図る

1-4 障がい者のスポーツ活動の推進

- ボッチャなどのユニバーサルスポーツを通じて、障がいがある人ない人も、多様な人が一緒にスポーツを楽しむ環境づくりを行う

1-5 みる・ささえるスポーツの推進

- 国際大会・全国レベルの大会を誘致・開催する
- パブリックビューイングなどを通じて地元選手・チームの活躍を応援する機会を創出する

基本施策 2 スポーツ組織・人材の充実

主なアクション

- ・参加しやすい環境づくりや運営人材の確保、指導者の育成など、多角的に事業内容を充実させることで、組織の会員数・団員数を維持する
- ・スポーツ推進委員・スポーツ普及員の活動の充実を図る
- ・アスリートの育成・支援を行う
- ・スポーツ活動の支援者・ボランティアの確保・充実を図る
- ・各スポーツ団体の活動内容について積極的に情報発信を行う

基本施策 3 スポーツ施設環境の充実

主なアクション

- ・効率的・効果的なスポーツ施設運営を行い、その利用環境を整える
- ・学校施設開放を実施することによりスポーツに取り組みやすい環境を整える
- ・サーフィンやサイクリング等のアウトドアスポーツの施設整備・充実を図る

基本施策 4 スポーツによる地域活性化

主なアクション

- ・サーフィン・トライアスロン・駅伝・ビーチランなどの地域資源を活かしたスポーツを推進する
- ・地域資源を活かしたスポーツツーリズムを推進する
- ・市内企業や民間事業者と連携し、大学や企業のスポーツ合宿を誘致する
- ・トップアスリート等による実技指導教室を開催する
- ・第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）等、国際大会を契機としたスポーツ普及啓発事業を行う



施策の展開

基本施策 1

スポーツの機会の充実

市民一人ひとりが心身の健康を維持し、豊かな生活を送るためには、日常的にスポーツに親しめる環境づくりが欠かせません。そこで、誰もが参加しやすいスポーツ機会の創出に取り組み、市民にスポーツの重要性を周知しスポーツ活動を推進します。その広がりをつまみ、スポーツ協会等と連携し、技術力・競技力の向上につながる競技スポーツの推進へとつなげていきます。

中学校の部活動の受け皿として、地域クラブの活動支援にも今後力を入れていきます。既存のスポーツ関連団体とも連携しながら、子どもがスポーツと関わる機会を継続的に確保していきます。

地域におけるスポーツの機会はコロナ禍を境に減少しており、令和5年には田原市地域コミュニティ連合会主催の交流スポーツ大会が開催されなくなりました。地域でのスポーツイベントの減少は、市民へのアンケート調査結果において、特にソフトバレーやミニバレーに取り組む人の減少や、高齢者のスポーツ実施率の低下といった形で表れています。地域におけるスポーツ活動を推進し、身近にスポーツと触れ合う機会を創出することは、幅広い世代におけるスポーツ習慣の定着に寄与するものと考えられます。

また、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指し、様々な年代が抱える健康課題に応じた支援を行い、生涯を通じての健康づくりに取り組みます。

方 向 性

市民がスポーツに親しむ機会を提供することでスポーツの重要性を周知するとともに、スポーツ関連団体と連携して地域のスポーツの推進を図り、生涯を通じた健康づくりに取り組みます。

主なアクション	
<p>・スポーツ大会開催など、スポーツにチャレンジできる環境を提供する。 【市・スポーツ推進委員・スポーツ協会・スポーツ少年団・なのはな SC・民間事業者など】</p> <p>具体的アクション： ニュースポーツ教室・ウォーキング大会等を開催する。 【市・スポーツ推進委員】 市政ほーもん講座のスポーツ健康講座を開催する。 【市・スポーツ推進委員】 各競技の初心者教室・スポーツフェスティバル大会を開催する。 【市・スポーツ協会】</p>	
<p>・地域におけるスポーツ活動を推進する。 【市・スポーツ推進委員・地域コミュニティ】</p>	
<p>・健康づくりを目的とした、たはら健康マイレージ等の取組を推進する。 【市】</p>	

〔数値目標〕

指標【実施主体】	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 12 年度)
市主催スポーツイベント参加者【市・大会主催者】	6,163 人	7,100 人
たはら健康マイレージ達成者数【市】	499 人	1,000 人



サッカー教室



3 世代交流ゲートボール大会

1-1 子どものスポーツ活動の推進

スポーツは子どもの人間性や体づくりに重要であり、興味や能力に応じて自ら体を動かす心地よさを得られる環境づくりが必要です。発達段階に応じた動きを楽しみながら習得できるよう、アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）※に基づくスポーツ教室などの取組を推進します。

平成31年4月に開館した親子交流館「すくっと」では、妊娠期から子育て中の親子が安心して交流し、支え合える場を提供しており、室内型の遊具やボルダリング施設など、子どもたちが体を動かすことのできる設備が充実しています。

小学生を対象としたスポーツ活動としては、学校教育での活動に加えて、スポーツ少年団をはじめとした地域のスポーツ団体による活動が行われています。市においても、保育園児から小学校低学年を対象とした運動教室の開催など、成長段階に応じた運動機会を段階的に提供し、運動に親しみやすい環境づくりに取り組んでいきます。

アンケート調査では、今後やってみたい・続けていきたいスポーツとして「ダンス」を選択した児童が12.8%にのぼり、民間のダンススクールに通う子どもが増えています。これを踏まえ、身体運動と表現性を組み合わせたダンスなどのスポーツ活動の成果を発表する機会を設けていきます。

また、中学生における部活動について、部活動に代わる受け皿となる「地域クラブ」の支援等に取り組むとともに、中学・高校の部活動と各団体間の横断的な取組を推進します。

方 向 性

遊びの要素を取り入れるなど楽しみながら体を動かす環境づくりから始め、様々なスポーツを楽しみ、高めることができる環境を作り、子どものスポーツ活動を推進します。

アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）：日本スポーツ協会が開発した教育プログラム。子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして、からだを動かすことの重要性や動きの質のとらえ方、身体活動の習慣化を促すポイントなどについて教える内容となっている。

主なアクション	
・乳幼児期における身体活動の推進を図る。	【市】
・子どもたちが楽しみながら積極的に体を動かすことを意図した運動・スポーツの推進を図る。 【市・スポーツ推進委員・スポーツ協会・スポーツ少年団・なのはな SC・民間事業者】	
・イベント等でダンスなどのスポーツ活動の成果を発表する機会を設ける。	【市】
・中学生の休日の活動の受け皿となる「地域クラブ」の支援等に取り組むとともに、中学・高校の部活動と各団体間の横断的な取組を推進する。 【市・地域クラブ協議会】	



産後アフターピクス&ベビーピクス講座



イベントで活躍するダンスチーム

1-2 成人のスポーツ活動の推進

成人において、スポーツをしている人は市民へのアンケート調査結果によると20代から50代の各年代において30%前後となっており、手軽にできる運動機会の提供が必要です。さまざまなライフスタイルに対応した運動機会を提供し、スポーツを気軽に楽しめるものにしていきます。

また、子育て世代においては、仕事や育児によりスポーツに親しむ時間の確保が難しい方や、運動不足を感じている方に対し、親子で参加できるイベントの開催を通じて、スポーツへの関心を高め、運動習慣づくりのきっかけを創出します。

方向性

市民一人ひとりのライフスタイルに応じて、それぞれのスタイルでスポーツを楽しめるような環境づくりを行います。

主なアクション

- 家族や友達と楽しむ運動習慣者を増やす。
【市・スポーツ推進委員・スポーツ協会・なのはなSC など】



ウォーキング大会



田原市陸上競技選手権大会

1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進

スポーツを通じた交流は喜びや生きがいに繋がり、日々の生活が活力あるものになります。70歳以上の高齢者のスポーツ活動への参加が減っている状況を踏まえ、高齢者がスポーツに取り組める環境をつくる必要があります。ひとりでも気軽に取り組めるウォーキングやラジオ体操などをきっかけとして、健康づくりを促進します。

方 向 性

スポーツの楽しさや健康効果をわかりやすくPRしながら、それぞれの運動能力に合わせてスポーツに取り組める環境づくりを行います。

主なアクション

- ・ウォーキングやラジオ体操などの気軽に取り組めるスポーツを通じて、高齢者の健康づくりやフレイル予防の推進を図る。【市・県健康づくりリーダー】



地域でのスポーツ健康講座(ラジオ体操)



県健康づくりリーダーによる
はつらつシニア体操教室

1-4 障がい者のスポーツ活動の推進

住み慣れた家庭や地域社会の中で、子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高めあうことのできる「地域共生社会」の実現に向け、「ユニバーサルスポーツ※」を推進していきます。

障がいのある人ない人も、多様な人が一緒に活動する機会を増やしていきます。

方 向 性

障がいのある人ない人も、多様な人が一緒にスポーツを楽しめるような環境づくりを行います。

主なアクション

- ・ボッチャなどのユニバーサルスポーツを通じて、障がいがある人ない人も、多様な人が一緒にスポーツを楽しめる環境づくりを行う。

【市・スポーツ推進委員・なのはな SC・社会福祉協議会】



ボッチャ大会



パラバドミントン選手による学校訪問

ユニバーサルスポーツ：年齢や国籍、障がいの有無に関わらず、誰もが一緒に楽しむことができるスポーツのこと。誰でも参加でき、楽しめるという点から、共生社会の実現への寄与も期待されています。具体的には、ボッチャやモルックなど、特別な技術や体力が求められない競技が多く、ルールも比較的わかりやすく工夫されています。

1-5 みる・ささえるスポーツの推進

本市ではサーフィンの国際大会や駅伝・トライアスロン等の全国レベルの大会が開催されており、東三河地域においてはプロバスケットボールクラブも存在します。また、本市出身のトップアスリートも数多く輩出しております。

こういったトップレベルの大会を引き続き誘致・開催し、レベルの高いスポーツに触れられる機会を創出していきます。また、活躍する地元選手・チームを応援する機会をつくることで、地元への愛着を深めるとともに、スポーツに親しみを持ち、将来のアスリートを目指す子どもたちが増えていくことを期待します。

方 向 性

スポーツを見たり支えたりする機会を創出し、スポーツが好きな気持ちを広げます。

主なアクション	
・国際大会・全国レベルの大会を誘致・開催する。	【市・スポーツ協会】
・パブリックビューイングなどを通じて地元選手・チームの活躍を応援する機会を創出する。	【市】



トライアスロン伊良湖大会



プロバスケットボールクラブ
「三遠ネオフェニックス」

基本施策2

スポーツ組織・人材の充実

スポーツ協会やスポーツ少年団など、地域のスポーツ団体の活動を総合的に支援し、事業内容を充実させることで、地域のスポーツ推進体制を継続的に維持します。あわせて、スポーツ活動を支える支援者やボランティアの確保・育成を進め、地域全体でスポーツ振興を支える体制づくりに努めます。

また、多くの団体で指導者が不足している現状を踏まえ、指導者情報の共有や組織・団体を越えた連携を促すことで、より効果的な指導体制を構築します。その際、技術の向上のみならず、豊かな人間性を育む誠実な指導ができる、教育的視点を持った指導者を育成することで、威圧的な言動（ハラスメント）を排除し、生き生きと活動できるスポーツコミュニティを目指します。

さらに、スポーツ団体の認知度を高めるため、市民に向けて活動内容を分かりやすく発信し、参加のきっかけづくりにつなげます。

方向性

指導者の育成やアスリートの育成など、各団体が活動の内容の見直しと充実を図るとともに、活動内容を積極的に発信します。

主なアクション	
・参加しやすい環境づくりや運営人材の確保、指導者の育成など、多角的に事業内容を充実させることで、組織の会員数・団員数を維持する。 【市・スポーツ協会・スポーツ少年団・なのはな SC】	
・スポーツ推進委員・スポーツ普及員の活動の充実を図る。 【市・地域コミュニティ】	
・アスリートの育成・支援を行う。 【市・スポーツ協会】	
・スポーツ活動の支援者・ボランティアの確保・充実を図る。 【市・大会主催者】	
・各スポーツ団体の活動内容について積極的に情報発信を行う。 【市・スポーツ推進委員・スポーツ協会・スポーツ少年団・なのはな SC】	

〔数値目標〕

指標【実施主体】	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 12 年度)
市人口に占めるスポーツ協会及びなのはな SC の合計会員数 【スポーツ協会・なのはな SC】	4%	4%
市内小学生におけるスポーツ少年団への加入率【スポーツ少年団】	18%	18%



地域クラブ指導者講習会



トライアスロン伊良湖大会で
活躍するボランティア

基本施策3

スポーツ施設の整備・充実

スポーツ活動の拠点として、スポーツに親しむことができる施設環境の充実を図るとともに、適切な管理運営に努めます。また、学校施設開放を実施することによりスポーツに取り組みやすい環境を整えます。

方向性

スポーツを推進するために必要な施設環境を見極め、計画的に整備・充実を図ります。

主なアクション	
・効率的・効果的なスポーツ施設運営を行い、その利用環境を整える。	【市】
・学校施設開放を実施することにより地域でスポーツに取り組みやすい環境を整える。	【市】
・サーフィンやサイクリング等のアウトドアスポーツの施設整備・充実を図る。	【市】

〔数値目標〕

指標【実施主体】	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
市が運営するスポーツ施設の利用人数【市】	29万人	30万人
学校施設開放の登録団体数【市】	213団体	230団体



田原市親子交流館すくっと



田原市総合体育館(スポーツギネス大会)

基本施策 4

スポーツによる地域活性化

地域資源を活かしたスポーツ大会やスポーツイベントの開催などを通じ、スポーツツーリズムの推進を図り、本市の魅力を国内外に発信するとともに、地域の活性化を図ります。

方 向 性

本市が有する地域資源を活かしたスポーツ大会やスポーツイベントの開催などを通じ、交流人口の拡大を図り、スポーツの力による地域活性化を目指します。

主なアクション
・サーフィン・トライアスロン・駅伝・ビーチランなどの地域資源を活かしたスポーツを推進する。 【市・スポーツ推進委員・スポーツ協会・渥美半島観光ビューロー】
・地域資源を活かしたスポーツツーリズムを推進する。 【市・渥美半島観光ビューロー】
・市内企業や民間事業者と連携し、大学や企業のスポーツ合宿を誘致する。 【市・民間事業者】
・トップアスリート等による実技指導教室を開催する。 【市・スポーツ協会・民間事業者】
・第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）等、国際大会を契機としたスポーツ普及啓発事業を行う。 【市】

〔数値目標〕

指標【実施主体】	現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 12 年度)
地域資源を活かしたスポーツイベント「トライアスロン伊良湖大会」の参加者数【トライアスロン伊良湖大会実行委員会】	967 人	1,300 人
トップアスリート等による実技指導教室の開催種目数【市】	5 種目	5 種目



赤羽根ロングビーチラン



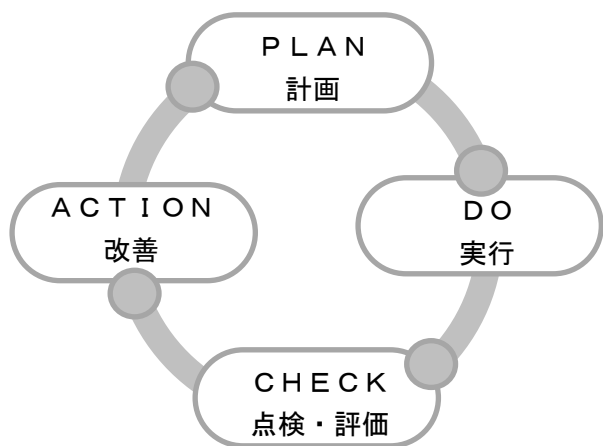
田原市ふるさと大使
小川泰弘氏による野球教室

1 計画の推進体制

本計画を推進していくためには、計画の進捗状況を把握し、計画的に取り組を進めていくことが必要です。

計画を効果的かつ着実に推進するために、「PDCAサイクル」[計画(Plan)→実行(Do)→点検・評価(Check)→改善(Action)]を確立し、継続的に計画の進行管理を実施していきます。

具体的には、年度ごとに市職員により主なアクションや数値目標に対する進捗状況の確認を各取組主体に対して実施し、よりよい成果を出すための調整や意見交換を行います。また、必要に応じて計画策定委員によるレビューを行います。



このサイクルは、P→D→C→Aと回り、事業の改善点を把握し、新たなサイクルを回していくことにより、継続的な計画の推進を図ります。

2 各主体の役割分担

計画の基本理念の実現に向けては、「市民」、「スポーツ関連団体」、「民間事業者」、「行政」が役割分担をしながら、連携して取組を進める必要があります。

市民の役割

基本理念の実現に向け、市民が生活の中に積極的にスポーツを取り入れ、主体的に健康づくりをしていくことが必要です。

そのため、各種スポーツ教室やイベントへの積極的な参加、スポーツ・健康づくりに関する情報の収集、指導者や支援者としての参画、大会やイベントの応援など、様々な場面で、スポーツに携わっていくことが期待されます。

スポーツ関連団体の役割

スポーツ関連団体には、活動を通じて、様々なライフスタイルの市民が利用しやすい、身近なスポーツ環境をつくる役割が期待されます。また、世代・属性を超えた参加を促進するため、各団体が連携して各種教室・イベントを企画・運営し、地域のスポーツ事業を活性化させることが求められます。

さらに、指導者やボランティアの育成を通じて活動体制を強化し、地域全体の運動実践力を高めます。加えて、活動情報や健康づくりの意義を積極的に発信し、住民の意識啓発と参加促進を図ることが求められます。

活動の結果を本計画の定める目標にフィードバックし、目標達成に向けて行政と連携しながら日々の活動をより充実させていくことが求められます。

民間事業者の役割

民間のスポーツクラブ等の事業者には、市民が気軽に親しめるスポーツや運動メニューを開発し、提供していく役割が期待されます。

市やスポーツ関連団体との連携をより一層推進することで、市全体でスポーツ意識に触れ合う機会を創出し、実業団選手やプロチーム選手による指導講習会の開催等による競技志向的なサポートも期待されるところです。

行政の役割

健康づくりへの関心の高まりとともに、スポーツ活動に対する市民ニーズは一層多様化しています。行政は、これらのニーズを的確に把握し、必要な事業を計画的に実施するとともに、スポーツ関連団体や民間事業者が果たす役割を積極的に支援します。

具体的には、スポーツ関連団体が継続的に活動できるよう、情報提供や人材育成支援、補助制度の活用促進、部活動や他団体との連携サポートなどを通じて体制強化を図ります。また、民間事業者とは、市民へのプログラム提供やイベント時の協力などの連携により、地域ニーズに応じた柔軟なサービス提供を後押しします。

さらに、スポーツ活動の拠点となる施設については、安全で使いやすい環境整備と適正な運営管理を行い、多様な主体が活動しやすい場づくりを進めます。こうした取組を通じて、すべての市民が生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康で幸せを実現できるまちを目指していきます。

田原市スポーツ推進計画 2026-2030

令和8年3月

田原市教育委員会 スポーツ課

〒441-3492

愛知県田原市田原町南番場30番地1

TEL 0531-23-3531

FAX 0531-22-3811

URL <https://www.city.tahara.aichi.jp>